

1996.11 No.113

# Handsome



発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 松本 啓

編集責任者 柴谷政司

印刷所 東京印刷(株)

## 第48回 中小企業全国大会開催される



10月17日 山形県山形市の山形市総合スポーツセンターにおいて第48回中小企業団体全国大会が開催されました。その参加者は全国各地からの中小企業の代表者5,000余名の参加であり、主催者側もふくめるとおそらく6,000名を超えると思われるほど大規模で、なおかつ盛大であります。鳥取県からは親会である鳥取県団体中央会をはじめとして、県青年中央会の東部・中部、そして我が西部で19名の参加となりました。

今回の全国大会は、「輝け未来へ 新たなスクラム」をテーマに、全国の中小企業団体の代表者が一堂に会し、自らの決意を内外に表明するとともに、国等に対して中小企業振興施策の拡充強化を訴え、組合組織を基盤とした中小企業の安定的発展と

豊かな社会を実現することを目的としたものであります。

大会においては開会宣言、政府関係者の方々からの祝辞、地元市長の挨拶などがあり、その後18項目にわたる決議案についての審議と決議がなされ、最後に大会宣言が行われて次期全国大会の開催地が宮崎県であることが発表され、参加者全員の万歳三唱にて閉会となりました。

我が西部青年中央会からは角田元県会長を団長として阿部直前会長など合計6名が参加いたしました。米子空港を9時40分の飛行機で出発し、東京乗り換えで山形空港に12時30分到着。「なんと近いもんだなあ。」というのが皆の最初の印象でした。山形空港は案の定、全国から集まった参加者でごった返しており、この大会の規模の大きさを感じさせました。

私もはじめての全国大会参加でしたが非常に勉強になり、なおかつ楽しい旅がありました。中央会においてまた楽しい仲間が増えたような気がします。

もし皆さん全国大会に参加したことが無ければ、ぜひ一度行って見てください。

(by 門脇直己)



## 第2回 山陰夢みなと博市民会議フォーラム開催



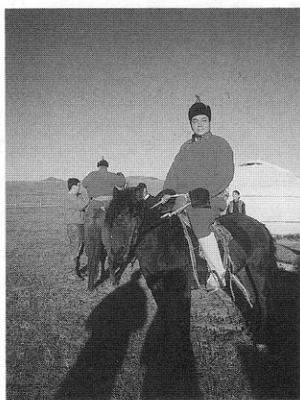
10月9日(水) ホテルサンルート米子にて、第2回市民会議フォーラムが開かれた。山陰夢みなと博PRビデオが上映された後、市民会議会長藤居氏及び協会事務局次長田中氏より挨拶が有り、続いて夢みなと博レディーとトリピー(マスコットキャラクター)が紹介され、現在の進行状況及び、今後のイベントなどが紹介された。続いて米子総合研究所代表永瀬氏より「21世紀を迎えるにあたり将来を占う大変なイベントであり、地域の皆さんのが、おもてなしの心で接しなければ、テーマである翔け、交流新時代はやって来ないであろう。皆さんの盛り上がる力でこの博覧会を成功させましょう。」と提言。続いてパネリスト小谷寛(鳥取おもちゃ博実行委員長)、中村見自(農業博実行委員会常任委員)、川本美津子(梨ドリーム博'96事務局員)、コーディネーター隱岐村悟(山陰夢みなと博市民会議事務局長)の4名が紹介され、パネルディスカッションへ。内容については、博覧会に係わった動機、地域住民をいかにして運動体に取込んだか、博覧会以前においての人と情報の交流について、また蓄積された情報をどのようにいかしたか、について熱のこもったディスカッションが繰り広げられた。最後に、共催者代表門永氏より謝辞が有り閉会した。

# モンゴルの大草原を渡る風に吹かれて

地域ビジョン委員会 湯原俊二

大空と大草原の海、その間を駆け抜ける風。日本人がいつしか忘れてしまった、大地に生きる輝く命、子供たちのあの澄んだ瞳。

去る9月7日から8日間、私は鳥取県とモンゴル国中央県との友好交流、来年開催の夢みなと博への出展依頼、そして鳥取県抑留死没者埋葬地の墓参を目的として、モンゴル国を訪問いたしました。



モンゴルの面積は日本の4倍、人口は215万人、日本の60分の1、また全人口の約半分が15歳以下の子供たちです。首都ウランバートルは海拔1351メートルで、日本の高原並の高さです。

関西空港からモンゴルの首都ウランバートルまで直航便で4時間半、着いて、まず驚いたのはモンゴル人の顔と日本人の顔と見分けがつかないことです。

た。日本の赤ちゃんにその名の通り「蒙古斑」ができるることは知っていましたが、ここまでとは。

他にも共通項は、たくさんありました。一例を挙げますと、言語であります。当時のソ連の影響で、ロシア文字を使っていますが、本来のモンゴル語は縦書きで、文法も英語、中国語の様に主語、述語、目的語の順ではなく、日本語と同様に主語、目的語、述語の順です。

しかし、13世紀初頭、チンギス・ハーンが世界史上類のない巨大帝国「モンゴル帝国」を建国したわけで、その大

陸的な感覚は今も引き継がれています。道なき大草原をバスで1日中、走り続けても、草原の風景は何ひとつ変わらず、モンゴルの方に言わせると「近くの隣町」といった感覚です。

人口の4分の3は、今でも遊牧民族でゲル（1時間で建てられるテント）で生活をし、何百頭もの羊、牛、馬、ヤクと共に、良い草を求めて、国中を移動します。その間、子供たちは、寄宿舎生活です。そのためか、アジアにおいて、日本、韓国に次いでほぼ100%の識字率あります。

私はモンゴル国の官房長官にお会いしましたが、'92年にソ連共産党の70年に及ぶ呪縛から解かれ、新しく建国をするんだというエネルギーな意気込みを感じました。

日本のように、ミスを許さない、そつのない人生、画一的な社会との大きな違い、大地と大空に育まれた「おおらかさ」を感じました。そして子供たちのあの澄んだ瞳。

一週間ゲルで生活をし、馬に乗るツアーが20万円だそうです。機会があれば一度モンゴルの風に吹かれては。



## 10月例会 報告



10月21日（月）米子国際ホテルに於いて、10月例会が開催された。

松本会長挨拶の後、山内会員より、中央会会員各位へ衆議院議員選挙でのお礼の言葉。これからの中会活動の決意表明があり、引き続き島根大学長（農学博士）北川泉先生を講師に迎えて、『中海圏の広域発展をめざして』というテーマでご講演いただいた。

中海を中心とした沿岸沿いに、40Km間隔で都市が点在している。この様な、地域形態は、日本でも数少なく、官民一体となれば発展要素の大きい地域であり、交通基盤の整備により中海の自然を維持しつつ50～60万人の規模の山陰中核都市が作れるのではないか？という8の字構想を披露された。

その為には民間活力でやれる事から始め、シンクタンクを

組織して行政を動かさなければいけないということを強調された。昔は行政の方から沢山の構想を提示し、その中から選択していたのが、今は民間でプランを練り、それに付けをして具体化し、行政に持っていくなければならないという事でした。

又、これからキーワードは「健康」であり6次産業が主流になっていく。6次産業とは、1次産業+2次産業+3次産業で6になり掛算をしても6になるとの説明でした。

1次産業（基礎資源と天然資源に人間労働が加えられて、具体的な資源が生まれる）に2次：3次の加工が加えられて製造工業品を作り出しているが、1次：2次：3次産業の融合（1つの場所で農作物を作り牧畜などの育成生産をし、それを加工して、その場で販売をする。例えば島根ワイナリー）6次産業がこれから21世紀の産業の在り方ではないか？集客をするには交通通信ネットワークの整備、そして、50～60万人規模の山陰中核都市を作るには循環機能を持った交通基盤の整備、それが中海圏の広域発展になると北川先生の『8の字都市構想』であるように感じました。行政を動かすのは、民間レベルの『熱意』であると最後に結ばれた。

# 10月度委員会報告

## 政治行政委員会

平成8年10月7日（月） 於：米子食品会館 出席者／13名  
 内容／1. 10月担当例会司会進行、受付、会場設営等の役割担当者を人選。  
 タイムスケジュール等打合せ。  
 2. 次回委員会の日時、場所等の打合せ。

## 地域ビジョン委員会

平成8年10月16日（水） 於：米子食品会館 出席者／10名  
 内容／山陰夢みなど博覧会での、衛星を使った生番組の内容について検討する。詳しい事については次回、中海テレビに視察に伺い現場にて討論の予定。

## 経済委員会

平成8年10月15日（火） 於：米子食品会館 出席者／8名  
 講師／米子市役所高等教育機関設置準備室 室長補佐 船越安之氏  
 内容／今回は講師に船越氏をお招きして米子市の短大、大学誘致についての歴史的経緯や問題点について伺った。

まず船越氏は今までの大学、短大の誘致状況にふれられ米子市の提示条件と各大学、短大との要望の差が大きく困難をきわめたがなんとかYMCAとの条件が整い誘致ができた。今後は18歳人口の減少と大学設立の経費増大のため、山陰地方のような人口の少ない所には公立、私立を含め誘致は不可能な状態が続くと思われる。

このため既存の大学の学部学科の増設や定員増を要望していくほかはなく米子市にとって大学誘致はかなり困難な状態であるとのことであった。

## 経営委員会

平成8年10月25日（金） 於：焼き肉 英 出席者／11名  
 講師／ユーノス米子 社長 吹野正和氏

内容／旧市役所横 西倉吉町 烹き肉 英 に中央会OB、ユーノス米子社長 吹野正和氏を講師にお迎えして開催した。吹野OBには、中央会活動の心得、想い出などをまずお話しして頂き、そして氏の経営理念を主にお話をうかがった。焼き肉をたべながらということもあるが、吹野OBの人柄を反映する様、とても和やかな委員会を過ごせたと思う。そして後半は、今月で退会される有田委員の送別会を行った。鳥取に帰られても益々のご活躍を、メンバー一同お祈りしております。

## 情報メディア委員会

平成8年10月11日（水） 於：(株) 中海テレビ放送 出席者／10名  
 講師／(株) 山陰ビデオシステム 代表取締役 高橋孝之氏  
 演題／「未来の映像メディアの考察」

内容／「情報伝達の方法」の中で、視覚を利用する「画像」が現在最も大きな役割を担っている。そこで、今回は中央会OBで山陰ビデオシステム代表取締役「高橋孝之氏」を講師に迎え、「未来の映像メディアの考察」という題でお話を伺いました。

会社設立当時から現在に至る経緯、又現在の状況、及びこれからマルチメディア時代に向けて始まる放送（もう既に始まっている）の「デジタル化」、「国際化」、その中の「(株) 中海テレビ放送の今後目指す方向」

等、当委員会の概論にふさわしい講義でした。

尚、中海テレビ放送の「コミュニティチャンネル」の中で、西部青年中央会のコーナーをもって情報発信をしては（JCは既に行っている）？という提案をされる。

## 指導能力開発委員会

平成8年10月24日（木） 於：中華飯店 大鳳 出席者／7名

講師／司法書士 小原得雄氏

内容／当会の幹事・司法書士の小原得雄氏を講師におよびして、食事をしながらお話を聞いた。顔に似合わずシャイな人で、「お酒の一杯も入らないと話なぞできぬ」とのことゆえ、まさに飲みながらの会になりました。

今に至るまでの仕事の変遷、ムコ養子に小原家に入られてからのオヤジさんとの家族交流、子供と親とのつき合い方、初めての海外旅行はベトナムで……などおもしろおかしく夜はふけてゆきました。

P.S. 話が大盛り上がり、小原先生には当委員会の打ち上げ旅行に参加されることを約束していただきました。

## 社会・文化委員会

平成8年10月11日（金） 於：米子国際ホテル 出席者／11名

講師／鳥取銀行 米子支店 女性行員 竹中、角田、田中、安野 各氏

演題／「女性問題」

内容／講師先生の自己紹介

ディスカッション形式による討論

1. 仕事をしていく上で、女性としてどう考えているのか
2. 女性として仕事をして良かった事
3. 来店される方、又は上司で嫌なタイプの人
4. 企業内いじめについて
5. 何故、鳥取銀行を選んだのか

白熱した質問等あり、2時間を持つ内容ある委員会でしたが、銀行員としてほこりをもち、女性にしか出来ない気くばり、仕事内容を理解すること。

男性として、また上司として、まだ理解がなく、コミュニケーションを持ち、反対に学ぶことが多いのではないか？

## 総務委員会

平成8年10月28日（月） 於：米子食品会館 出席者／12名

講師／OB 高田昭美氏

OB 吹野正和氏

演題／私にとっての中央会

内容／1. 役員会報告

2. 講演

3. 親睦ボウリング大会の打ち合わせ

## 広報委員会

平成8年10月7日（月） 於：米子食品会館 出席者14名

内容／1. 「ハンサム11月号」編集について

2. ホームページメンテナンスについて

## ●例会・委員会（7月～10月）出席状況（%）

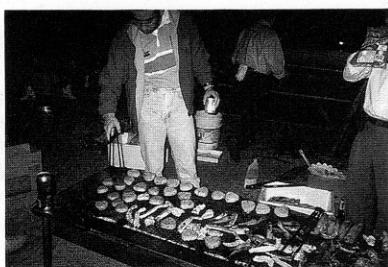
	7月	8月	9月	10月	計
政治行政	例 会	60	53.3	26.6	86.6 56.6
	委員会	80	33.3	73.3	86.6 68.3
社会文化	例 会	68.7	68.7	43.7	50 57.7
	委員会	68.7	100	62.5	68.7 74.9
地域ビジョン	例 会	62.5	43.7	31.2	50 46.8
	委員会	75	68.7	68.7	62.5 68.7
経営	例 会	60	53.3	73.3	42.8 57.3
	委員会	75	75	81.2	78.5 77.4

	7月	8月	9月	10月	計
経済	例 会	56.2	62.5	43.7	31.2 48.4
	委員会	87.5	68.7	75	50 70.3
広報	例 会	78.5	85.7	66.6	73.3 76.0
	委員会	92.8	92.8	86.6	93.3 91.3
情報メディア	例 会	68.7	43.7	81.2	50 60.9
	委員会	87.5	68.7	68.7	62.5 71.8
総務	例 会	85.7	73.3	93.7	81.2 83.4
	委員会	85.7	93.3	93.7	75 86.9
指導力開発	例 会	73.3	46.6	40	40 49.9
	委員会	100	80	80	46.6 76.6

## 委員会対抗 ボウリング大会 — 途中経過 —

チーム成績（人数点含む）	個人成績（アベレージ）
1. 社会文化委員会 5,431 (2回)	1. 和田健二 361
2. 情報メディア 5,410 (2回)	2. 谷口勉 348
3. 政治行政委員会 5,375 (2回)	3. 高田孝志 348
4. 地域ビジョン 5,142 (2回)	4. 坂本浩幸 342
5. 経営委員会 5,116 (2回)	5. 音田猛 334
6. 情報メディア 4,873 (2回)	6. 高橋洋志 332
7. 総務委員会 2,616 (1回)	7. 浜田一哉 325
8. 広報委員会 2,604 (1回)	8. 多賀彰穂 320
9. 指導力開発委員会 2,377 (1回)	9. 佐久間信 319
	10. 野嶋功 317

## ● 第5回 ● OB交流会開催



10月5日境港市の弥生公園においてOB交流会が開催されました。

JRで現地入りした交流会参加者を駅で迎えてくれたのは、鬼太郎とねずみ男のかぶり物をした総務委員会の面々でした。この鬼太郎とねずみ男、OB交流会参加者より観光客の方に人気が高かったようで、参加者よりも観光客のお嬢さん方に力を入れて愛嬌をふりまいていたような気がしたのは気のせいでしょうか？

境港市も夢みなと博に伴う観光客受入れの準備が着々と進んでいるよう、駅裏手の建築中の隠岐汽船の乗り場を左手に眺めながら交流会の会場である弥生公園に到着した。会場は公園の一角に自家発電の灯がこうこうと当たり、宴卓ができ、本格的なバーベキューと鍋の準備がすでに出来上がっていました。

午後7時すぎに松本会長と手島OB会長の挨拶につづき、松田六代会長の乾杯の音頭で開宴となった。参加人数はOBの方32名と現役19名の51人でしたが、幹事をされた総務委員会の方や、手伝いをされた境地区の会員の方々を合わせると総勢70人近くの大人数で交流会はおこなわれました。

当日は気温は少々肌寒かったものの心配された天候も回復し、和やかな雰囲気でOBの方と現役会員が膝を交えての充実した時間を過ごしました。又、要所にアトラクションが組まれ、境港ならではの素材を使った鍋とバーベキューに参加者からの評判も満点であったようです。最後に足立九代会長の締めによつてOB交流会は閉会をしました。

交流会の準備・進行・かたづけと、多忙であった総務委員会の皆さんと境地区の会員の皆さん、大変ご苦労さまでした。



### 聞いてごしない Part 10

立冬を過ぎるといよいよ冬の到来であり、我が家もストーブやこたつの準備にとりかかる頃である。そして手帳には、忘年会のスケジュールがぱちぱちと登場てくる。

また今年も強くない酒に負けて酔わされ、可愛い女性に「唄って」と頼まれると（仕事だから一応頼む）彼女の本心には気付かず、何かへりくつを言って一度は拒みながらも、数分後にはマイク片手に何年来、同じ曲を懲りもなく唄っている自分が想像つく。

おまけに額に額に立てなくてよい筋まで立てて……

そこで今回は「酒と歌」の話を少々。「悲しい酒」「酒場にて」「北酒場」「酒よ」「おもいで酒」「酒と泪と男と女」等々、ちょっと考えただけでも酒という字のついた歌はザラザラと出てくる。題名に酒がついていなくても酒を歌った歌「舟歌」なども数多くある。

それにもかか、もの悲しくて別離とか悲哀とか人生の暗い面を歌った歌が多いようだ。

一方、外国の酒の歌といえばオペラ椿姫の「乾杯の唄」にも代表されるように、どちらかというとワンパターンで、酒そのものを賛美したものとか、みんなで乾杯して元気を出そうといった明るい歌が多いそうである。

これはセンチメンタルで情感を大切にする日本人好みなのか、酒を飲むきっかけとか、酒に期待するものが違うからなのか、あるいは日本の歌 자체がプライベートな感情を歌つたものが多いからなのか、いずれにしても外国と比べて日本の酒の歌はまことに多種多様である。

要するに、日本人は歌を通して酒というものに対して、一つの文化をもっているような気がする。

そういうことで、今年も日本人としての文化を愛し「演歌」を唄いまくる覚悟でございます。その場に同席した皆様は御理解の程を……

ウサギとカメ

### 11月例会案内

とき 平成8年11月15日（金）

ところ 平安閣6階

演題 将来の品質管理システムHACCP サブテーマ 食中毒と予防

講師 社会福祉法人養寿会理事 船越元熙氏

担当 情報メディア委員会

\*尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

### 11月役員会報告

11月定例役員会が平成8年11月1日（金）、米子食品会館に於いて開催された。

当日の主な議題は、次のとおりです。

- (1) 11、12月例会（役員会）開催の件
- (2) 県青中研修会、ゴルフ、海外研修の件
- (3) その他

\*尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

コピーをして名簿にお貼り下さい

### 編集後記

高校時代の友人にS君というとても面白い男がいた。彼とは、高校2年間同じクラス、共に体育会系の激しいクラブ活動、そして女好きもという点で仲は良かった。高校3年生の夏休みに、彼に非常に元気のいいインキンを移され、私の受験勉強の大半は、ペンを持つ右手は、常に股間で動いていた。私の人生の軌道修正をしてくれた彼から、先日電話があった。「聞いてごしないの原稿が出来たけん、FAXで送るぞ」……